

未来を変えるのは教育でしょ

1. 教育を考える一言

「未来を変えるのは教育でしょ」

2. 背景

私の出身大学は東京農工大学であり、「理数学生応援プロジェクト」の採択大学でした。「理数学生応援プロジェクト」とは、SSHの大学生版のようなものです。私はそのプロジェクトに参加し、エネルギー問題をテーマにして取り組みました。エネルギー問題を勉強してきて次第に分かってきたことは、世の中に出回っているエネルギー問題・環境問題についての情報にはたくさん偽りがあるということです。例えば、地球温暖化の二酸化炭素主因説です。地球温暖化の原因は二酸化炭素だけでなく、太陽の活動度や地球の地磁気などの他の要因も関係していると言われていたにもかかわらず、世の中の多くの人には「二酸化炭素が温暖化の犯人」と認識されています。また、現在は「マイ箸」ブームで割り箸を使うことは避けられがちですが、割り箸は木材の廃材に当たる部分を利用して作られているので環境破壊にはつながりません。むしろ、マイ箸の塗料やプラスチックを作るために石油を使う方が環境破壊につながります。このように、世の中には偽りの情報がたくさん出回っています。おそらく、利権に関わる問題が影響しているのでしょう。

情報を疑って読むことを教わったのは理系学生応援プロジェクトを担当していた先生の他に、教職の授業を担当していた守一雄先生からも教わりました。守先生の経歴は筑波大学大学院博士課程修了、信州大学教育学部教授を経て東京農工大学大学院教授（2007年4月～）です。森まりもというペンネームで絵本「チビクロさんぽ」「チビクロひるね」「チビクロころ」を出版しています。現在、世の中を動かしているのは大人です。世の中を変えるには大人に新たな教養が必要です。しかし、世の中を変えるために大人を教育し直すことは難しいです。だったら将来大人になる子どもに正しい教育をすることが未来を変えることにつながります。このような意味で守先生は授業中に「未来を変えるのは教育でしょ」と冗談交じりに言われました。

3. 考察

未来を変えるには様々な力が必要ですが、その中でも情報リテラシーが重要であると考えています。その力は現在の日本人に不足している力であるとも考えています。私は将来数学の先生として子どもに未来を変える力、情報を批判的に読み取る力を身に付けさせたいです。

参考文献

武田邦彦『偽善エネルギー』幻冬舎、2009年

丸山茂徳『「地球温暖化」論に騙されるな！』講談社、2008年